

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|----------------------|
| 事業所番号 | 4372400947 |
| 法人名 | 社会福祉法人天恵会 |
| 事業所名 | グループホームありあけの丘 |
| 訪問調査日 | 平成 20 年 3 月 18 日 |
| 評価確定日 | 平成 20 年 4 月 10 日 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」 |

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年3月28日

【評価実施概要】

| | |
|---------------|--------------------------------------|
| 事業所番号 | 4372400947 |
| 法人名 | 社会福祉法人天恵会 |
| 事業所名 | グループホームありあけの丘 |
| 所在地 (電話番号) | 熊本県玉名市天水町部田見448-1 (電 話) 0968-71-5888 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」 |
| 所在地 | 熊本県熊本市水前寺6丁目41-5 |
| 訪問調査日 | 平成20年3月18日 |

【情報提供票より】(平成20年3月22日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|-----------------------|-----|
| 開設年月日 | 平成 15 年 6 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 9 人 | 常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 | 8.7 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|----------|-----------|
| 建物形態 | 単独 | 新築 |
| 建物構造 | 木造瓦葺平屋造り | |
| | 1 階建て | 1 階 ~ 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|------------|----------------|----------|-------|
| 家賃(平均月額) | 21,000 円 | その他の経費(月額) | 15,000 円 | |
| 敷 金 | 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 180 円 | 昼食 | 300 円 |
| | 夕食 | 300 円 | おやつ | 0 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(2月 1日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 名 | 女性 | 9 名 |
| 要介護1 | 0 名 | 要介護2 | 2 名 | | |
| 要介護3 | 5 名 | 要介護4 | 2 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 88 歳 | 最低 | 79 歳 | 最高 | 98 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------|
| 協力医療機関名 | 吉田医院 にしむら歯科医院 |
|---------|---------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高いみかん山の中腹にあるホームは、眼下に懐かしい部田見や横島の町並みが広がり、広い芝生の庭と自然環境に恵まれて、のびのびとした生活が営まれている。職員も地元出身者が多く、入居者から昔話を聞いたり、地元ならではの共通の話題に花を咲かせたりと、入居者が現役の頃の自信に満ちた時代を思い出し、笑顔が見られる生活を大切にしている。スウェーデン方式の建物は自然木が多用途、段差もなく、職員の努力により清潔が保たれている。入居者に喜んでもらいたいと自宅から花菖蒲の鉢植えを持ちこむ職員や、入居者の手を取りゆっくり歩む姿に、入居者を大切に思うあふれる気持ちが感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価とホーム内での話し合いの結果、11項目に渡る改善結果が報告されている。寒さ対策の風防扉の設置や、入居者に合わせより快適なソファへの買い替えを始めとし、細部に渡り改善に取り組んでおりホーム並びに法人の意欲的な姿勢が質の向上に確実に繋がっている。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は担当項目を決め、職員全員で取り組んでいる。自己評価を実施することで職員にも多くの気付きがあったことが聞き取りから確認できた。前回同様の改善計画に期待したい。</p> |
| | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を2ヶ月に1回定期的に開催し、ホーム現状の報告や、外部評価結果を議題に揚げ、参加者から率直な意見・感想を得ている。ホーム行事への地域住民の意欲的な参加の促進や、地域への広報の役割も運営推進会議が果たしている。</p> |
| 重点項目② | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年3回開催される家族会や誕生会、家族同伴の旅行等、ホームの暮らしぶりや入居者の様子を知ってもらい、一緒に過ごしてもらう中で、家族からの意見を引き出す努力を行っている。運営推進会議に全家族交代で出席しており、家族の関心の高まりに一層期待が持たれる。</p> |
| | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム横の広場を活用し、地域の人々を招いて春祭りや夏祭りを開催し、入居者の楽しみと地域への貢献になっている。小中学生のサマーキャンプを継続して受け入れ、介護職に就く子供も生まれる等、嬉しい成果も得ている。近くの神社に参拝する近隣の住民が、気軽にホームに立ち寄るオープンな関係も築かれている。</p> |

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|--------------------------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 地域密着型サービスとして「何が大切か」「何が提供できるか」を念頭に、職員全員で独自の理念を作りあげている。理念の作成は職員が心をひとつに同じ目標に向かう上で意義も深く、「入居者と共に」「地域と共に」入居者を尊重し、地域の人々との共生を目指している。 | <input type="checkbox"/> | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 職員自らが作り上げた理念であるので、理念の共有は言うまでもなく、職員の言葉使い、物腰、入居者への接し方に理念の具現化が見られる。家族にも理念についての説明が行なわれている。 | <input type="checkbox"/> | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の人々の協力で根付いた芝生の広場で、春祭りやどんどや等の行事を開催し、近隣住民との交流を図っている。毎年行なわれる小中学生のワークキャンプの受け入れは、入居者にとって楽しみであると共に、地域に対し社会資源としての役割も果たしている。近隣の人々が神社参りの折に立ち寄るような開かれたホームとなっている。 | <input type="checkbox"/> | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回の外部評価を運営推進会議で公表し、出席者の意見を聞くと共に、職員間で話し合い改善に取り組み有効な活用がなされている。今回の自己評価は、担当項目を決め職員全員で取り組み、気付きの共有化に繋げている。 | <input type="checkbox"/> | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 入居者・家族・地区長・行政職員・包括支援センター職員の参加を請い、2ヶ月に1度定期的に開催している。特に入居者と家族は、交代で全員に参加してもらう体制をとっている。ホームからの活動報告や参加者からの質疑応答を通じ、地域との交流やホームへの理解に繋げている。 | ○ | ホームに対する理解も広がりつつあり、どんどや等の行事へ地域住民の積極的な参加に、会議が一役買っている。これからも率直な意見交換の場になるよう期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|--|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 地域密着型に移行し、ますます市町村との連携を重要視し、市町村の窓口へ出向いての相談は元より、担当職員を法人内の行事に招待したり、その手伝いをお願いする等、密接な関係を作って連携を図っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 家族の面会は多く、その都度入居者の近況や職員の異動等の報告を行なっている。入居者一人ひとりにアルバムが作られ、生き生きとした生活ぶりを家族に伝えられる取り組みが見られた。預り金は個人別のノートに記載し家族のサインもあり、明朗な管理が伺える。 | ○ | 高齢であったり遠方にお住まい等の理由で、なかなか面会に来れない家族には、直接対話できる家族以上に密な報告を工夫されると、更に信頼感が増すものと思われる。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会を年3回開催し、行事や食事を共にする中で、家族同志の交流や意見の引き出しに努めている。また運営推進会議は、全家族順番での参加方式で、全ての家族に係わってもらう取り組みがみられた。 | ○ | 家族の率直な意見の引き出しのためには、家族会の際、職員が席をはずし家族同志で話し合ってもらうことや、アンケートの実施も有効であると思われる。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 法人内での異動は、職員の適性や経験を考慮して行なわれている。合同朝礼を法人内で実施し、他部門の職員もグループホームの状況把握と入居者に関する情報共有化に努めているので、交代もスムーズに行なわれている。また法人内の合同行事等を通じ、日頃から入居者と馴染みの関係作りにも工夫している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 母体に特別養護老人ホームを持つ利点を活かし、法人の全体研修、各種委員会への参加、外部講師を招聘しての学習会等、職員を育てる各種の取り組みが見られる。施設外研修に出席した場合は伝達講習が義務付けられ、成果の共有がなされている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者は他のグループホームとネットワークを作り、情報の交換とサービスの向上に努めている。特に、職員が入居者と共に他ホームを訪問し合う取り組みは、相互の良い刺激になり、実践的な交流への意欲が見られた。 | ○ | 入居者も交えての相互訪問は、開かれたホームとして有効かつ画期的な取り組みであると思われる。今後も長く継続されることを期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|------|--|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居にあたっては本人や家族と面接を行ない、不安がないよう十分に話しあう事を大切にしている。事前の見学、体験入居やショートステイにも出来るだけ応じ、無理のない入居開始に努めている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 初めは「こんなことできない」と言う入居者にも、野菜を切ってもらったり、皮むきをお願いし、現役時代を思い出し力を発揮してもらうことを大切にしている。ソファに寄り添い夕飯の買物リストを作ったり、一緒に歌ったりと、理念に掲げている「入居者と共に」する生活の実践がみられた。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式の「私が出来ること、出来ないことシート」を活用し、情報の収集に努めている。また、本人の意向に添って家族へ思いを伝え、共に外出できるような支援や、ボディータッチで気持ちを感じ取る等、職員からの働きかけを多くし、意向の把握に努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | センター方式の焦点情報、長谷川式スケール、月1回のカンファレンス、モニタリング(家族の要望、意見も合わせて実施)等、多様なツールを使ってのアプローチで、関係者の意見を集約し介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 短期目標3ヶ月・長期目標半年を基本に、介護計画の見直しを行なっている。遠方の家族にも電話でモニタリングに参加してもらい、要望を反映するよう努めている。カードックスを利用し、介護計画と日々の記録用紙が一瞥できるような工夫も見られた。 | ○ | 個人記録に、介護計画を意識した内容や日常的に評価した記述が増えると、入居者の情報がより確実に蓄積され更によいと思われる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 短期利用型のショートステイを開設し、地域社会に貢献している。入居者の通院支援や、家族との合同旅行を企画するなど、入居者の生活を支えるための多機能な支援に努めている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 在宅時代からのかかりつけ医との関係を重視し、家族からの要望があれば受診に同行支援している。受診結果は電話、口頭で家族へ連絡すると共に、受診ノートを作成し職員間の共有を図っている。夜間や緊急時の協力医も確保し、適切な医療が受けられる支援が確認できた。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 看取りに関する研修を実施し、職員の意識向上に努めている。また「看取り指針」を作成し、家族と方針の共有がなされている。ターミナルケアの必要性が高まった場合は、本人・家族への緊密な説明と同意の上、適切な介護を行なう「自己決定と尊厳を守る看取り介護」の詳細な指針が示され、家族の安心を得る体制が確認できた。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 理念の中の「職員の心得」に、思いやりのある心・優しい言葉かけ・笑顔での接遇等を掲げ、人生の先輩である入居者に尊敬の心を持って接する様子が伺える。個人記録やケアプランはカーデックスに挟み込み、容易に目につかないよう工夫されている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 規則正しい生活のリズムは大切にしつつ、その上で一人ひとりが自分のペースで、新聞を読んだり、家事を手伝ったり、夕食の買物に同行したり、おやつ作りを楽しんだり、自由に暮らせる支援が見られた。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者と一緒に料理の本を見て献立を考えたり、本人や家族からの聞き取りで、好みのメニューを提供する工夫がなされている。食事の下拵え時に、職員が声かけし入居者が参加する姿もみられた。食事の前にはメニューの説明があり、食への関心に配慮されていた。職員は入居者の状態に応じ介助しながら、同じテーブルで共に食事を摂り、入居者と入居者をつなぐ役割を果たしていた。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴日の取り決め等はなく、本人の希望に応じ毎日でも入浴できる。家庭的な浴室での1人浴は、くつろいだ支援となっている。入浴拒否の入居者には、家族訪問時に協力を頼んだり、タイミングを逃さず本人の意思を大切にした対応に努力がみられた。 | ○ | 入浴を拒む人への対応はどこのホームでも苦慮されていることのひとつだが、事例研究や職員の気付きを蓄積し、継続した支援を期待したい。家族との事実の共有も重要かと思われる。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 一人ひとりの趣味を把握し、俳句やパズルに取り組む支援、家事に力を発揮できる場面作り、職員と一緒に歌ったり語り合ったりするひと時には、張り合いのある日々を過ごしてもらいたいという職員の思いが伺えた。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | テラスや玄関先に椅子を置き、気軽に戸外で過ごせる工夫が見られた。広い芝生の広場は、車椅子でも散歩しやすい遊歩道が整備され、法人の応援姿勢が伺える。季節の花を見にドライブしたり、温泉や公園等への多様な外出支援が行われ、入居者のにこやかな様子が幾葉もの写真に収められていた。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関のセンサーで入居者の安全に配慮しながら、鍵を掛けないケアが実践されている。日頃入居者は、居室、ウッドデッキ、玄関先での日向ぼっこなど、ごく自然に自由に過ごせるようになっている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | ホームでは年に1回、避難訓練を実施。必ず今後の改善策や反省点を検討し、実効性の有る訓練となっている。各居室の残留者確認法や、裏庭花壇を車椅子通行が可能なように整備する等、入居者の安全確保への高い意識が見られた。また地域住民との間で防災協定を締結し、公民館を非難場所として確保することや、逆に地域の避難場所として、施設提供を申し出る等、地域に密着した災害対策が取られている。 | | |
| ikasuru | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日の食事は30品目以上の食品摂取を心掛け、カロリー計算を行なったうえで、バランスのとれたメニューとしている。入居者の状態に応じた形態の食事提供に努め、病気に起因する水分制限への対応を行なう等、個別の支援がなされている。 | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関・廊下・リビングと、至る所に花が飾られ、窓から見える風景とあいまって季節を感じられる落ち着いた住まいとなっている。換気に注意を払い、掃除も行き届き、リビングのソファも新調され、入居者を大切にする雰囲気が伝わってくるようである。リビングに、専用の椅子を持ちこむ入居者もあり、居心地のよさを考えた支援が伺えた。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室は清潔が保たれ、家族にも好評である。本人の使い慣れた家具や愛着の有る小物、写真等を持ち込めるよう家族と協力し、居心地のよい部屋作りに配慮がみられる。また、一人ひとりの趣味や好きなものを取り入れ、「俳句が好きな方」「パズルが好きな方」と、入居者の個性が表現された部屋作りに工夫されている。 | | |

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------------|------------|
| I. 理念に基づく運営 | 22 |
| 1. 理念の共有 | 3 |
| 2. 地域との支えあい | 3 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 5 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 7 |
| 5. 人材の育成と支援 | 4 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 10 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 4 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 6 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 17 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 3 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 3 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 10 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 38 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 30 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 8 |
| V. サービスの成果に関する項目 | 13 |
| 合計 | 100 |

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

| | |
|-----------------|-------------------|
| 事業所名 | グループホーム ありあけの丘 |
| (ユニット名) | グループホーム ありあけの丘 |
| 所在地 (県・市町村名) | 熊本県玉名市天水町部田見448-1 |
| 記入者名 (管理者) | 坂本知子 |
| 記入日 | 平成20年2月4日 |

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|---|--|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 今年度は、職員全員で地域密着型であることを重視し、わかりやすく毎日の中で提供できる理念作りに取り組みました。 | |
| 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 毎朝朝礼時、最後に壁にかかげた理念を皆で声を出して読んでいる | |
| 3 | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 敬老のお祝いでご家族がお見えになられた時、理念について今後職員の取り組みについて説明を行った。 | ○ 地域の方々への浸透を図って行きたい。 |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 毎月2回当事業所より上にあるお宮へお参りに見える近隣の方々が帰りに立ち寄られるようになり、入居者の方々と会話が弾むようになりました。 | |
| 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 買物や外出活動で地域へ出向いたり隣接する母体ホームへ保育園児やボランティアの方々の交流会があり参加交流を行っている。 | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 各老人会の方々の見学や大学よりの実習生の受け入れ等を行っている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 外部評価の意義の理解のため自己評価は全員で行っている。また、前年度を振り返り、新たな取り組みについて検討し実施している。 | | |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、2ヶ月の活動状況報告を行い、出席者よりのご意見を今後のサービス向上に反映できるように努めている。 | | |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市町村担当者の方と顔なじみとなり、当事業所で抱えている問題や実情について気がねなく話せ助言、御指導を頂く関係作りを行っている。 | | |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 全職員の権利擁護に関する制度の理解には欠けているため、支援が必要な時対応ができていない状態にある。 | ○ | 研修等に参加し、対応できる職員数を増やして行きたい。 |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 日頃より言葉使い、接し方については指導を行っている。また、職員間気軽に話ができる関係作りを行っており、入居者の情報交換を行いながら虐待防止に努めている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|------|-------------------------------------|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | | |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | | |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | | |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ○ | もっとご家族と何でも気軽に話せる関係作りを図って行きたいと思っている。 |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | | |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | | |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|---|--|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月一回の勉強会、母体である施設全体の施設内研修会、必要に応じて施設外研修にも職員交代で参加させ、研修内容についても勉強会時に発表してもらっている。 | |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修会に参加する事で、知識・サービスの向上を図り、ネットワーク作りで情報の交換を行っている。また、今年度より他グループホームさんとの交流を開始し、行き来する間柄になっている。 | |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 定期的なカンファレンスの場で職員の意見、不満、希望等を聞くようにしている。また、日頃よりストレスが溜まらないよう職員間で何でも口に出して関係作りをしており、職員旅行等も行っている。 | |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 勤務希望を取り入れ、気付きで改善出切る所は改善している。また、資格取得への配慮も行い、向上心をもって働けるよう取り組んでいる。 | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 職員の入居前訪問や入居者の入居前見学などもおこなっており、入居者の方の不安や希望等を事前にお聞きし、安心して入居できる体制を整えている。 | |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 電話だけの相談に終わらず、できるだけ来て頂いて、どういう所にあり対応する職員、他の入居者の方々等を見て頂いたあと、質問にお答えするようにしている。 | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|---|--|------|----------------------------------|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談内容によっては、ケアマネージャーに相談したり、他の施設や包括支援センターにつなぐ対応をしている。 | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | ご本人が安心して入居できるよう事前に見学して頂いたり、日中体験入居やショートステイ利用できる体制作りを整えているのでご家族と相談しながらおこなっている。 | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 一つ屋根の下で、一緒に暮らす仲間意識を持って頂き、訴えに耳を傾け、不安な表情を読み取り笑顔、笑い声の聞こえる暮らしが送れるよう共に支えあう関係作りを行っている。 | | |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | ご本人さんといっしょに暮らしたくても出来ない状況にあるご家族の思いを察し、以前の暮らしが維持できるよう、ご家族との会話できる関係作りに努め共に支えあっている。 | | |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 日頃のコミュニケーションの中でご家族のことを話題にしたり、面会・行事でお見えになられた時、本人さんの状況を説明し、よりよい関係が保てるように支援している。 | | |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 毎月ご家族とお墓参りに行かれています方がおられ、その他冠婚葬祭や地域行事参加のための支援をしている。 | | |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 個人のプライベート時間を除き皆に声かけし、入居者同士が会話できるよう話題作りに努め口論になりそうな場面では、早めに距離を置いて頂けるよう支援している。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 入院された場合は、お見舞いに行ったり、ご家族より相談があった場合は、相談に応じるようにしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご家族からの情報や入居者の方と接する中でそれとなく話を聞きだしたり表情、言葉より意向の把握に努めている。 | | |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人、御家族および担当ケアマネージャー等より情報を得て、今までの生活等についての把握に努めている。 | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 毎日の生活の中で、ここまで出来そう、少し無理になられた等観察し職員間で情報交換を常に行っている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 計画前には、ミニカンファレンスを開き日中、夜間における入居者の情報交換を行い、モニタリング時ご家族より新たな希望等をお聞きし計画に取り入れるようにしている。 | | |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 期間に応じて見直しを行っているが、変化あり、見直しが必要となった場合は本人、ご家族よりの要望を反映して新しい計画を立てている。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の暮らしの様子は、時間を追って個別に記録に残し、職員は勤務につきしだ入居者の把握に努めている。また、情報を共有し介護計画の見直しにも活かしている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 今年度より短期利用型を開設、空床時利用して頂けるようになりました。また、ご家族の要望に応じて通院への同行等も行い、多機能性を活かした支援を行っている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 地域資源の活用として役所、消防、区長さん、他のグループホームさん等との意見交換やボランティアへの協力を呼びかけている。 | | |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 本人やご家族の希望により、訪問美容サービスを利用されています。 | | |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 地域包括支援センターとの関わりが薄かったので、今年10月より運営推進会議に出席して頂くことになりました。 | | |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人が以前より通院されているかかりつけ医や事業所の協力医での医療が受けられるようにしている。また、ご家族や職員で協力し、受診も行ったたり必要時は、往診に来て頂いている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|------|----------------------------------|
| 44 | <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> | | |
| 45 | <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> | | |
| 46 | <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> | | |
| 47 | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | | |
| 48 | <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> | | |
| 49 | <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|--|----------------------------------|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 当GHの理念にもかかげている個人の尊厳を大切にし、毎朝その理念を職員で読みあげ意識向上を図り、記録等に関しても取り扱いは職員に徹底している。 | |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 本人のしたい事、したくない事、の決定は自己決定を大切にしており、意思表示が困難な方に関しては、選択肢を使ったり、表情などを見て援助し、自己決定に繋げている。 | |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な一日の流れに沿って生活のリズムをつけながら、一人ひとりのペースに合わせ、その時の心境、体調を考えた支援を行っている。 | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 現在ご家族の希望により美容院に出張依頼したり、ご家族が来居されカットされています。身だしなみに関しては、お化粧品やマニキュア・衣服など支援しております。 | |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食堂・台所が対面式になっており、食事の臭いや音を感じとってもらっています。また、食事の下準備も出来る所はして頂き、食べたい物をリクエストして頂いています。 | |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 買物に同行された場合などおやつ、飲み物等お好きな物を買って頂けるよう支援しています。 | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|--|---|------|----------------------------------|
| 56 | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 職員は利用者の排泄時間を把握し、一人で行けない方へのトイレ誘導・介助、また、汗かきな方は、日中紙パンツより布パンツをはいて頂き、失敗される方は、さりげない誘導と気持ちよい排泄が出来るよう支援しています。 | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 基本的には、毎日の入浴を実施している。本人の体調や希望に応じ、時間をずらしたり、ゆっくりお一人で浴槽にはいつて頂けるよう支援している。 | | |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 昼夜逆転とならないよう日中はウトウトされる方には声かけし、活動することで生活のリズムを整え気持ちよく眠れるよう支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 入居者のできる事を見極め食事下準備、掃除、洗濯物たたみ等して頂いている。気分転換で皆で歌を唄ったり、散歩、買物、外出活動等を支援している。 | | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の自己管理が出来ない方がほとんどで、ご家族の希望でお預かりしている。外出時御自分で支払い可能な方には、自分で支払っていただけるよう支援している。 | | |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 玄関前には、広い芝生の広場がある。歩行者用道路も整備されており、希望時や落ち着かれない時などいつでも外の空気に触れて頂けるよう支援している。 | | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 月2回の外出活動を計画し地域へ出向いている。また、ご家族との外出機会を持たれるよう働きかけ支援している。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|---|--|------|---|
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の意思で電話をかけたり、かかってきた電話で会話をされたりと自由に出来る支援をしている。 | ○ | 手紙のやり取りで不足を感じています。今後手紙のやり取りが出来るよう支援して行きたいと思えます。 |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 面会時間は決めておらず、いつでも自由に出入り出来るようにしている。来客時は、お好きな場所でゆっくり歓談出来るようにしている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員はまず、拘束は犯罪であることと周知している。ヒヤリ・ハットの次点でどうすれば安全ケアができるか皆で検討し、工夫・実施している。 | | |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 建物を扉で囲ったり、鍵をかけたりなどのない、いつもオープンな状態となっており、いつでも自由にウッドデッキへ出たり、玄関先椅子に座ったりされています。 | | |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 常に見守り自室で過ごされている方には、顔を出し所在の確認を行っている。夜間は巡回を行い、チャイムやセンサーでも対応し、安全に配慮している。 | | |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 刃物類は、目の届かない場所に保管し、その他の物は入居者の状態により、危険を防ぐ取り組みをしている。 | | |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 各勤務の引継ぎで小さな変化も逃さず、検討事項が生じた場合は、その日のメンバーで対策を考え、実行し、翌日その結果どうであったか話し合っている。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 毎年消防署での救急蘇生法について研修に参加し、職員に伝達し対応出来るようにしている。 | ○ | 定期的には、行っていないので定期的に取り組んでいきたい。 |
| 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 当事業所では、年1回の避難訓練を行っている。また、年3回の母体での訓練にも参加、地域の消防団の方も参加されている。 | | |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | ご家族の面会時にリスク対応に関する提案をしたり、ご要望などを伺いミニカンファレンス時、職員全員に伝達している。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 職員間で日頃のお一人お一人の行動や癖等に関する情報交換を行っており、健康チェックは勿論のこと会話・顔色・歩行状態等により変化を察知している。 | | |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は、入居者の内服内容については理解しており、変更があった場合は、その都度伝達し、薬は手渡し内服確認を行っている。 | | |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 食物繊維の多い食材や乳製品を取り入れている。散歩や室内での歩行訓練をしながら、自然排便ができるように取り組んでいる。 | | |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後に歩行可能な方は自室で、その他の方はその場でマウスケアを行い、いつも爽快感・清潔が保てるように心掛けている。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎週1週間分の献立表を作成、栄養バランスを考えカロリー数値も出している。また、母体の管理栄養士にも目をどうしてもらいアドバイスを受けている。 | | |
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等） | | | |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | | | |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | | | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|---|---------------------------------|------|----------------------------------|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | | | |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | | | |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | | | |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | | | |

| V. サービスの成果に関する項目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|------------------|--|-----------------------|--------------|
| 項 目 | | | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある |
| | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と |
| | | | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ○ | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に1回程度 |
| | | | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている |
| | | | ②少しずつ増えている |
| | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き生きと働いている | ○ | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・当事業所は、小高い山の中腹にあり環境がよく、建物の前が芝生の広場となっているため、散歩コースとしても最適な場所にあります。
- ・各自ご自宅の延長の住み慣れた家でご家族、知人が自由に入出入りできる場であり、職員も家族の一員として接しています。
- ・個々の残存機能の維持及び昔を回想して頂けるような取り組みに努め、楽しいと笑顔が見られるような日々の暮らしになるように支援しております。